

## ■はじめに

1 月 4 日に市立学校にあてた『新春の挨拶』では、学習指導要領の改訂を取り上げ、社会の大きな変化に伴い、教育も大きく変化していることを述べました。

今日は、皆さんに、一条高等学校の将来像についてお話をします。このことは、小中学校の先生やこども園・幼稚園の先生方にとって、「高等学校の話か」ということではなく、「教育」という視点で捉え、考えていただきたいことです。

奈良市唯一の市立高等学校である一条高等学校を、子ども達が「行きたい学校」とするだけでなく、一条高等学校での学びを通して「10 年後の自分が楽しみになる学校」にしていきたいと思っています。

そのような学校に変わらなければならない理由は、3 つあります。



## ■一条高等学校が変わらなければならない理由

### (1) 社会の変化により、求められる力が変わってきている

今、「第 4 次産業革命の入り口に立っている」といわれるように社会が大きく変化してきています。その新しい社会をどう乗り切っていくのかということ、教育を通して考えなければならない時代なのだと思います。平成 30 年 6 月、「Society5.0 に向けた人材育成」※<sup>1</sup>（文部科学省）と「未来の教室と EdTech 研究会 第 1 次提言」※<sup>2</sup>（経済産業省）が出されました。これらの提言は、2030 年の社会、学びがどのように変わるのかという点について述べられています。

人工知能（いわゆる AI）が発達し、インターネットによって人とモノがつながっていく社会が、まもなく訪れます。AI による自動運転の車や無人レジなどはその代表例だと思います。新規採用やアルバイト採用に AI を活用する企業も出始めています。数年後、子どもたちが社会に出るときには、もっと身近なものとなっているでしょう。

このような社会で求められる力は、次のような力だと考えられます。

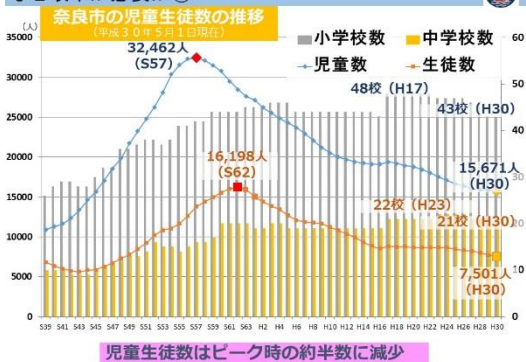
- ・ 様々な情報があふれる中で、それを吟味し、読み解き、多様な人とコミュニケーションを取る力
- ・ 論理的・科学的に考え、知識や技術を使いこなす力
- ・ 好奇心・探究心をもって、新しい価値を見つけ、生み出す力・感性

AI によって大きく変わっていく社会の中で、子どもが将来、自分の幸せをつかみ、より良い社会を自ら切り拓いていくためには、教科書を教えるだけ授業では通用しないのです。このような社会の変化に伴う教育の変化が、1 つ目の理由です。

## (2) 学校としての魅力をどう高めるか

2つ目の理由は、「県立高校の再編に対応する必要がある」ということです。

### なぜ改革が必要か②

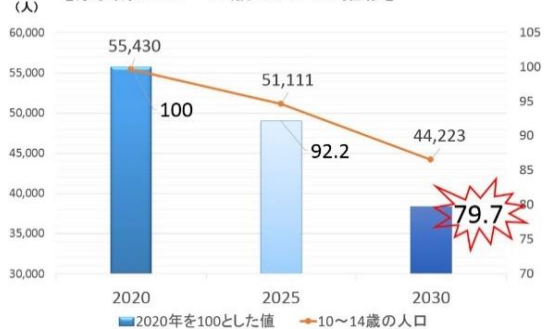


奈良市の小・中学校の子どもたちの数は、昭和50年代から60年代をピークに減少傾向が続き、現在ではピーク時の約半数となっています。学校数も小学校は最大48校から現在は43校に、中学校も22校から21校に減っています。この傾向は、少し遅れて高等学校にも及んできます。

2020年からの10年間の人口の推移をみると、今後10年間で10歳から14歳の人口は、2割も減少します。

昨年、県は、「県立高等学校適正化実施計画」※<sup>3</sup>を示しました。この計画は、単に学校数・学級数を減らすのではなく、それぞれの学校に特色を持たせ、高校としての魅力、独自性を高めていくものです。国も、2021年度から高校の普通科を抜本的に改革し、各校の独自色を高め、生徒が明確な目的を持って学べるように新学科や専門コースを設置できるよう、現在検討を行っており、県立高校の再編は、その国の流れに沿ったものといえます。

### 【奈良県の10～14歳の人口の推移】



このように県立高等学校が大きく変わる中、一条高等学校の魅力をどう生かしていくのが問われているのです。

## (3) 自らの課題に向き合い、分析する

3つ目の理由は、一条高等学校自身が抱えている課題です。現在の一条高等学校が、社会の変化に応じた教育が行われているかどうかという課題と向き合っているか分析が必要だと考えます。

一条高等学校は、生徒達にとって大変満足度の高い学校であり、「文武両道」の学校といわれます。部活動も盛んで、全国大会に出場する部もたくさんあります。一方で、学力面に目を向ければ、「本当に入学して来た子どもたちが、自らが学力を伸ばして、次の進路に向かって飛び立っているのか」というところを分析する必要があります。

校内の学力調査や学習に関するアンケート結果等の具体的なデータをしっかりと分析することを通して、学力を定着させ、深く考えさせる授業が出来ていたかどうか、高校1年生の段階で高等学校の学習スタイルを身に付けさせる指導ができていたのかという

ころを問う必要があると思います。「成績を伸ばしたいが、方法が分からず悩む」という生徒に対して、「どのように勉強すればいいか」ということを教えることも教員の役割です。

「この10年で見ても一条高等学校入学者の学力は高くなった。そこから見ると、一条高等学校の国立大学進学実績は物足りない。

生徒の可能性を最大限に引き伸ばす教育がなされていないように感じる。」という中学校進路指導担当者の声もあります。

こうして見えてきた課題から、一人一人に応じた目標を持たせ、粘り強く、分かりきるまで子どもの学びを追求し、背中を押していかなければなりません。つまり、子どもの力を伸ばしきれているかということが、重要なのです。

### ■一条高等学校が目指す教育

では、具体的にどんな教育を行うのか。大きな柱として、文理を統合してSTEM教育を進めていくということを確認しています。

STEM教育は、最近、日本でも盛んに言われています。スポーツの試合に勝つための戦略としてプログラミングを活用する事例や、農業とプログラミングを掛け合わせる農業高校の事例などが公表されています。STEM教育は、単に理数の教育を充実させるものではなく、身近な生活や社会の課題をSTEMで解決していくための学びだと捉えています。

一条高等学校は、こうした理数の教育に「芸術」を取り入れ、特色を出した教育を進めようとしています。理系の整理された論理だった考え方に、「芸術」という新しいものを創っていく発想を取り入れ、これからの社会を創っていくベースを培っていきたいと考えています。そして、将来、地域の中でも、世界の中でもイノベーションを起こすことができる人材を育てたいと思っています。

このような教育の中身については、文部科学省の事業であるSSHも申請しながら、一条高等学校の先生方で十分議論していただきます。もちろん、教育委員会もそこに参画して議論を進めていきたいと考えています。

一方で、「学校を変える」ということは、単に教育の中身だけを変えるということではありません。

例えば、[学校規模]。子どもの数が8割くらいまで減るのに今のままでいいのか。

[学科]をどうするのかということもあります。

或いは、STEM教育を進めていくために、高等学校の3年間だけでこの教育を完結できるのかどうか。中学校からの[中高一貫教育]の必要性についても議論し、検討していく必要があります。

なぜ改革が必要か③



入学してきた子の可能性を広げ、  
伸ばして卒業させていく



「10年後の自分」が  
楽しみな学校に！



他にも、[学区] をどうするかという議論もあり、いろいろな立場からの意見や今までの仕組みや伝統も含めて検討を進めていかなければなりません。教育委員会が主体となって考えること、学校が主体となって考えることと、それぞれありますが、「大きく変わらなければならない」という認識のもと、議論を進めているところです。

### ■一条高等学校の取組から自校園を振り返る

今日は、県立高等学校だけではなく一条高等学校も変わろうとしていることについて話をしましたが、こども園・幼稚園・保育園・小中学校の先生方にとっても、子ども達をどう育てるかということについて考えることは一緒です。そういう大きな視点で教育を捉え、それぞれの学校園に照らし合わせて、子ども達にどんな力をつけなければいけないのかということを考えていってください。

どうぞよろしくお願いいたします。

※1 奈良県教育委員会ホームページ 「県立高等学校適正化実施計画」  
<<http://www.pref.nara.jp/secure/189337/zissikeikaku.pdf>>

※2 経済産業省ホームページ「『未来の教室』とEdTech研究会の『第1次提言』がまとまりました」  
<<http://www.meti.go.jp/press/2018/06/20180625003/20180625003.html>>

※3 奈良県教育委員会ホームページ 「県立高等学校適正化実施計画」  
<<http://www.pref.nara.jp/secure/189337/zissikeikaku.pdf>>